

逸題（勝海舟）

芙蓉 碧旻に 聳ゆ

此に 対し 須からく 真を 養う べし

擾々として 何事か 遂げん

時 危くして 偉人を 思ふ

芙蓉聳碧旻 對此須養眞
擾々遂何事 時危思偉人

作者 名は義邦、麟太郎と称した。幕末・明治初期の政治家、一八五五年、長崎の海軍伝習所に入り、一八六〇年、咸臨丸で太平洋を横断。維新の際、西郷隆盛を説いて江戸城の無血開城に成功した。

解説 特に題名を付けていない詩。

語釈 ※芙蓉はすの花であるが、ここでは富士山の異称として使っている。※碧旻はあおぞら。※擾擾はごたごたと乱れるさま。※偉人は偉大な人。ここでは西郷隆盛のこと。

通釈 富士山が青空に聳え立っている。この雄大な姿に心の垢を洗い流して心を養う事である。危難に遭いあわてふためにも結局にも出来はしない。辞世が危うくなった時にこそ、偉大な人の出現が待たれるのである。